

相談・交流部門目次

- 1 相談・交流の基本的な考え方
- 2 相談業務
 - 1) 相談・交流部門の人員体制
 - 2) 相談の場所と時間帯
 - 3) 相談状況
 - ① 身分別相談状況
 - ② 内容別相談状況
 - i 研究・学習
 - ii 就職・アルバイト
 - iii 奨学金・授業料
 - iv 生活一般
 - v 入学・進学
 - vi 交流活動
 - vii ビザ・在留
 - viii 事件・事故
 - ix その他
 - 4) 相談業務における課題
 - 5) 就職支援
 - ① 支援の考え方
 - ② 就職実績
 - ③ 就職支援における課題
 - 6) 留学生支援会
 - ① 支援会発足の経緯
 - ② 支援実績
 - ③ 留学生支援会の課題
 - 7) 日本人学生の海外留学支援
 - ① 人員体制
 - ② 相談状況
 - ③ 情報提供
 - i 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布
 - ii 電子メールによる海外留学情報の提供
 - iii 海外留学説明会の実施

- ④ 海外留学状況
 - i 交換留学による海外留学者数
 - ii 協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣
 - ⑤ 日本人学生の海外留学支援における課題
- 3 学内交流活動
- 1) 定期交流活動
 - ① 国際交流ラウンジ
 - ② ビデオショウ
 - 2) その他学内活動
 - 3) 福井大学留学生会
 - ① 設立背景と事務局構成
 - ② 福井大学留学生会の活動
 - 4) 学内交流活動の課題
- 4 地域社会との相互支援交流活動
- 1) 小学校等への一日講師派遣
 - 2) 福井県等官界とのネットワークと交流活動
 - 3) 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動
 - 4) 地域国際交流ネットワーク構築及びネットワーク誌「こころねっと」
 - 5) 福井大学留学生同窓会活動
 - ① 福井大学留学生同窓会設立の背景
 - ② 福井大学留学生同窓会設立
 - ③ 支部設立の動き
 - ④ 同窓会の活動
 - ⑤ 上海支部企画「教育・経済交流ミッション」来訪
 - 6) 福井県留学生交流推進協議会
 - 7) 課題
 - ① 地域社会との相互支援活動について
 - ② 同窓会各国支部との連携活動について
- 5 外部への情報発信活動
- 1) 主な発信媒体
 - 2) ネットワーク構築を支える情報登録・管理

相談・交流部門

1 相談・交流の基本的な考え方

学生支援、特に留学生への相談業務の考え方についての基本的な視点は次の通りである。

- 1) 各種学内活動及び地域交流活動を通して、留学生と留学生、留学生と日本人学生、留学生と地域市民・産業界とのネットワークを構築し、そのネットワークを通して、学生を支援する。
- 2) 問題が発生してから対応する問題解決型の相談から、問題発生を未然に予防する、更には、自己研鑽・社会活動展開のための相談へと、重点の移行を目指す。
- 3) 発生した問題の解決においては、学内外の諸機関・担当者と連携して解決する。
- 4) 可能な限り授業を多く担当し、留学生との接点を構築する。

(相談担当者が持つ授業に毎学期約 100 名の受講生がいるので、在学留学生約 250 名、ほぼ全員と顔が見える関係にあり、且つ、e-mail address 等を把握している)

2 相談業務

1) 相談・交流部門の人員体制

福井大学留学生センターでは相談・交流部門に教員 1 名が配置されている。他方、国際課には課長以下職員が 4 名、事務補佐員が 2 名いる。国際課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談・交流担当教員の方には、腰を据えてゆっくり相談したい場合にやってくる。

2) 相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には 5 人用のソファースーツがあり、寛いだ雰囲気を提供できる環境にある。相談時間帯は留学生センターホームページ (<http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>) に掲載されている。また、研究室入口ドアには「いつでもどうぞお入りください。不在の場合のメモは上の籠（はい ふさい ばあい うえ かご）に入れてください」との掲示があり、籠が用意されている。また、研究室のドアは常時開放されている。つまり、下記時間外でも、授業中でない限り相談を受ける。

表Ⅲ-1 相談の時間帯

曜日	午前	午後
月		14:00 ~ 17:00
水	9:00 ~ 12:00	
木	9:00 ~ 12:00	
金	9:00 ~ 12:00	

3) 相談状況

相談担当教員の本学着任日（平成12年）以降の全相談データを記録し、身分別、内容別に分類してあるので、いつでも統計資料が作成できる状態になっている。

① 身分別相談状況

平成19年度における身分別相談状況は表1の通りである。

以下相談件数はすべて、相談担当教員の研究室来訪による相談のみである。e-mailによる相談、国際課における相談等は入っていない。

表1 平成19年度身分別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	0	1	2	15	56	23	58	39	97	49.7%
学部学生	0	0	0	0	17	4	17	4	21	10.8%
研究生	0	0	8	4	13	8	21	12	33	16.9%
特別聴講生	0	0	5	24	7	8	12	32	44	22.6%
小計	0	1	15	43	93	43	108	87	195	100.0%
合計	1		58		136		195			
割合	0.5%		29.7%		69.7%		100.0%			

・研究生には、特別研究学生を含む。 ・特別聴講学生には、科目等履修生を含む。

一方、平成19年10月1日現在の身分別在学留学生数は表2の通りである。

表2 平成19年10月1日現在の身分別在学留学生数

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	4	3	5	11	70	25	79	39	118	47%
学部学生	0	0	2	1	56	23	58	24	82	32%
研究生	1	0	3	9	8	3	12	12	24	9%
特別聴講生	0	0	3	9	8	9	11	18	29	11%
小計	5	3	13	30	142	60	160	93	253	100%
合計	8		43		202		253			
割合	4%		17%		80%		100%			

さて、表1及び表2からわかるように、在学留学生の身分別の割合が、概ねそのまま、身分別相談件数の割合分布となっている。

ただ、日本語学校を経て日本語力を身につけ、日本社会での生活経験も豊富な学部学生は適応力と問題解決力があるので、その数に比べて相談件数は少なくなっている。

他方、日本語力があまりなくても研究室に研究生として入り、その後大学院へと進む研究生の場合は語学力が弱く、且つ、生活力も劣るので、様々な問題を抱えることになり、相談件数が多くなる。

更に、研究生や院生の場合は、研究室に所属しているので、指導教員や研究室仲間との緊密な人間関係が構築できるが、そのような環境にない特別聴講生は周りに相談する相手が少ない。

尚、平成15年10月に旧福井大学と福井医科大学が統合したが、医学部の留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが地理的に離れていることから、医学部留学生の相談には対応できていない。

② 内容別相談状況

平成19年度における内容別相談状況は表3の通りである。

表3 平成19年度内容別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	0	0	1	5	18	3	19	8	27	13.8%
就職・アルバイト	0	0	9	11	16	13	25	24	49	25.1%
奨学金・授業料	0	0	0	0	5	8	5	8	13	6.7%
生活一般	0	0	2	4	5	4	7	8	15	7.7%
入学・進学	0	1	1	12	15	4	16	17	33	16.9%
交流活動	0	0	1	10	18	3	19	13	32	16.4%
ビザ・在留	0	0	1	0	1	2	2	2	4	2.1%
事件・事故	0	0	0	1	15	6	15	7	22	11.3%
小計	0	1	15	43	93	43	108	87	195	100.0%
合計	1		58		136		195			
割合	0.5%		29.7%		69.7%		100.0%			

平成15年度～平成19年度における内容別相談状況は下記の通りである。

表4 平成15-19年度の相談内容別相談状況

(相談件数)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	1	0	20	33	108	67	129	100	229	20.1%
就職・アルバイト	0	0	26	61	111	64	137	125	262	23.0%
奨学金・授業料	0	0	0	12	26	16	26	28	54	4.7%
生活一般	0	0	9	13	46	25	55	38	93	8.2%
入学・進学	0	2	9	30	102	72	111	104	215	18.8%
交流活動	0	0	16	35	96	31	112	66	178	15.6%
ビザ・在留	0	0	1	2	20	7	21	9	30	2.6%
事件・事故	0	0	1	6	44	29	45	35	80	7.0%
小計	1	2	82	192	553	311	636	505	1,141	100.0%
合計	3		274		864		1,141			
割合	0.3%		24.0%		75.7%		100.0%			

表2及び表3から平成19年度の内容別相談件数は従来の内容別相談件数の割合とほぼ重なっているが、研究・学習が低下し、就職・アルバイトが増加している。

i 研究・学習

研究学習に関する相談は例年多いが、院生からの相談がほとんどである。研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。修士論文で悩んで相談に来る学生は皆無に近いが、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、規定の論文数になっているのに指導教員が予備審査を開いてくれない、今のテーマでは論文が書けない、などである。黙って悩みを聞いてあげると同時に、必要に応じて指導教員と協議している。特に、研究テーマを変更したいということで、関係者と協議の上、結局研究室を変更したケースも数件ある。他方、学部学生で単位が取れず、進級できないと、駆け込んでくる学生もいる。

近年増えているのが、研究の一環として、地域の学校などでアンケートやインタビューをしたいので、協力してほしいという相談である。構築しているネットワークを通して対応している。

ii 就職・アルバイト

就職したい、企業を紹介してほしい、履歴書の書き方がわからない、自己PR文をチェックしてほしい、就業ビザが取れない、給与について会社に問い合わせてもいいか、将来日本から中国に転勤転籍したら給料はどうなるのか、内定通知を複数もらったがどこがいいか等、就職に関する相談が例年相談件数のトップである。就職相談体制については後述するが、福井商工会議所、ジェトロ福井、福井労働局、入管との連携、特に産業界とのネットワークを通して支援している。

今年度は就職者数が多かったこともあり、相談件数が増えた。

iii 奨学金・授業料

奨学金・授業料の相談件数が少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、また、授業料免除は学生課が窓口であるため、こちらでは学生課への問い合わせに終わることによると思われる。具体的な相談案件は、民間奨学金申請書作成、特に課題作文に関することや、推薦状作成依頼などである。

iv 生活一般

生活一般に関する相談は少ないが、入院に伴う高額医療払い戻しや、警察による職務質問、健康問題などがある。従来多かった住宅賃貸契約保証人問題は外国人留学生支援会発足に伴いなくなったが、アパート探しなどの相談はある。

v 入学・進学

入学・進学に関する相談は学内進学、学外進学、更には第三国への進学相談がある。学内進学の場合、交換留学生等短期留学生の大学院進学への相談が多いのも特徴である。入学資格要件を満たさない、適当な指導教員を探してほしい、などの相談もある。学外進学、及び第三国への進学の場合は、進学先情報提供、研究計画作成の指導、推薦状作成依頼がほとんどである。

vi 交流活動

学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるという認識から、小中学校や県内機関に留学生を講師として積極的に派遣している。相談内容としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが相変わらず多いが、その他に、交流活動に参加したいが、指導教員が厳しくて許可がもらえそうにないなど、研究室／指導教員が交流活動と研究活動のバランスに苦慮している面が見られる。

vii ビザ・在留

相談件数が少ないのは、各種ビザの取得・更新手続き等に関しては国際課留学生係が中心に処理して、国際課段階で解決されているからだと思われる。相談担当教員への相談案件は、家族や友人のビザ取得に関する相談が中心である。

viii 事件・事故

事件・事故に関する相談は全般に少ないが、その大半は交通事故案件である。被害者としてだけでなく、加害者の場合もあり、対応が難しい。恐怖のあまり、現場から逃走してしまったり、相手の心情を逆なでする言動があったりすると、問題がこじれる。本学の交流活動等で懇意にしている保険屋さんから適切なアドバイスを受けながら、誠意をもって対応している。問題解決過程での経験は、留学生にとっても社会勉強になっているようだ。

ix その他

海外から直接メールが入ったり、福井在住の外国人から、修士課程、博士課程への入学等に関する問い合わせや相談を受けることが多い。主に工学部・工学研究科に関するもので、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、研究計画、履歴書、成績証明書等必要書類を取り寄せ、当該学科の留学生委員会委員に情報を転送し、学科内全教員に受入意思の有無を確認するように依頼している。毎年数名がこのような形で入学している。

また、県内関係機関から毎年50件ほど、国際交流活動の企画、求人活動計画等についての来訪相談を受ける。19年度にも52件の来訪相談があった。内35件(67%)は交流活動関係、11件(21%)は就職関係の相談であった。

日本人学生からの相談で、近年増えているのが、講座での課題や卒業研究のために、留学生を対象としたアンケートやインタビューへの協力依頼である。3学部すべてから依頼が来ている。その場合は、地域交流活動と同じように、一斉メールで留学生に依頼内容を配信したり、調査対象に該当する学生に直接話をしてほしいしたりしている。

4) 相談業務における課題

- ① 学生を支援するための、ネットワーク作りを更に推進することが肝要である。
- ② 留学生センターの施設が分散し、且つ、日本語教育の教室から離れた場所に、相談担当教員の研究室があるため、留学生が相談に来ても不在なことがある。相談業務を含め、センター業務全体が有機的な機能を果たすためには、センター施設の集中化が望まれる。
- ③ 相談担当教員が授業を多く持つことは、留学生と接点を持つために肝要であるが、他方、交流活動、シンポジウム等業務が重なり、時間的・精神的な余裕がなくなり、留学生が相談に来にくい状況を作っているかと懸念される。

5) 就職支援

① 支援の考え方

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。留学生センターは双方のニーズを調整しながら、留学生の国内就職支援および経済界特に県内企業の国際化支援を行っている。具体的な支援の流れは表5の通りである。

表5 就職支援の流れ

2月中旬

留学生向け就職説明会実施

内容 : 過去の就職実績・平成18年度の内定状況について
 : これからの就職活動と相談について(就職の心構え、就職ナビ登録、履歴書作成法、自己PR書の書き方、内定後の注意事項等)
 : 各種資料配布
 「就職活動の手引き2007年」福井大学作成
 「日本で働こうとする外国人のみなさんへ」
 (英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語版)厚生労働省作成
 「ふくい企業ガイドブック2007年」福井労働局作成
 : 就職が内定している先輩の就職活動体験談
 : 就職希望者リスト登録

5月

福井大学就職希望留学生一覧を県内企業100余社に送付

6月以降随時

個別企業による会社説明会を留学生センターラウンジで開催

求人票、会社説明会等をe-mailで配信。及び個別に就職相談を受ける。

内定決定

中島研究室に内定決定を連絡後、在留資格変更手続き等の相談を受ける。

② 就職実績

19年度の留学生の国内就職実績は下記の通り30名(県内11名)であった。

表6 平成19年度留学生国内就職実績（就職先内定情報入手順）

	企業名	学生所属	国籍	企業所在地
1	(株)タケダレース	教育研究科教科教育専攻英語教育専修	中国	福井市
2	(株)アタゴ	教育地域科学学部交換留学生	中国	福井市
3	三菱自動車工業(株)	工学研究科機械工学専攻	中国	東京
4	東芝(株)	工学研究科電気電子工学専攻	中国	東京
5	(株)日立製作所	工学研究科電気電子工学専攻	中国	東京
6	ナブテスコ(株)	工学研究科知能システム工学専攻	中国	神戸市
7	(株)アーキ・ピーアンドシー	工学部建築建設工学科	バングラデシュ	横浜市
8	京セラ(株)	工学研究科電気電子工学専攻	中国	横浜市
9	(株)アタゴ	教育学研究科教科教育技術教育	中国	福井市
10	(株)グローバル・アドバンテージ	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	東京
11	三菱電機エンジニアリング(株)	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	神戸
12	日立造船(株)	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	大阪
13	日本電気(株)	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	東京
14	アイテック株式会社	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	鯖江市
15	金子産業(株)	教育研究科教科教育専攻国語教育専修	中国	東京
16	マツダ(株)	工学研究科知能システム工学専攻	中国	広島
17	(株)フルキャストテクノロジー	工学部機械工学科	マレーシア	名古屋
18	(株)フルキャストテクノロジー	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	名古屋
19	ギャレックス(株)	教育学部聴講生	中国	武生市
20	(株)グランディア芳泉	教育研究科英語教育専修	中国	あわら市
21	福井コンピュータ(株)	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	福井市
22	(株)FGテック	工学研究科建築建設工学専攻	中国	東京
23	(株)ニッテイ	工学部建築建設工学科	マレーシア	東京
24	エフティアパレル(株)	教育研究科教科教育専攻	中国	福井市
25	(株)タケダレース	教育地域科学学部交換留学生	中国	福井市
26	エフティアパレル(株)	教育研究科教科教育専攻	中国	福井市
27	(株)フォーラムエンジニアリング	工学研究科材料開発工学専攻	中国	東京
28	(株)ユース	工学研究科建築建設工学専攻	中国	京都市
29	東芝(株)	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	東京
30	アイテック(株)	工学研究科物質工学専攻生物応用化学	中国	鯖江市

③ 就職支援における課題

- i 就職支援の最大のポイントは求人会社の確保である。平成13年度、14年度及び18年度に福井商工会議所、ジェトロ福井、福井県等と協力して実施した「留学生と県内企業との交流会」を手掛かりに、留学生の国内就職も順調に推移しているが、更なる展開のためには、求人会社の開拓が必要である。
- ii 就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進することも課題である。事務的手続きの指導だけでなく、動機付けに関する講義が後日感謝されることが多い。
- iii 現在構築しつつある同窓会支部網を通して、今後は母国企業への就職支援へと活動を広めていきたい。

6) 留学生支援会

① 支援会発足の経緯

平成18年9月の教育研究評議会決議を経て福井大学外国人留学生支援会が正式に発足した。そして、平成19年1月に「支援会設立のお知らせと会員加入のお願い」という文書を全教職員に発信し、会員加入手続きが始まった。会費は一口1,000円（但し、留学生会員は一口500円）。特に従来、留学生が賃貸住宅に入居する際には、主に指導教員が賃貸契約の保証人になっていたが、連帯債務の可能性等があり、その精神的な負担は大きかった。支援会発足に伴い機関保証制度が確立し、その重圧から開放されることになった。

② 支援実績

平成19年度の賃貸契約機関保証件数は59件あったが、その他の支援対象案件はなかった。

表7 福井大学外国人留学生支援会会則

<p>福井大学外国人留学生支援会会則</p> <p>(名称)</p> <p>第1条 本会は、福井大学外国人留学生支援会（以下「支援会」という。）と称する。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 支援会は、福井大学の外国人留学生（以下「留学生」という。）に対し、修学上及び生活上の支援を図り、福井大学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3条 支援会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p>(1) 留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援</p> <p>(2) 留学生の不測の事故・疾病に対する支援</p>	<p>平成18年9月6日 教育研究評議会</p>
--	------------------------------

(3) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 支援会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 第5条第1項に規定する役員

(2) 福井大学の職員で、支援会の目的に賛同し、所要の会費を納入し、入会の手続きを行った者（以下「職員会員」という。）

(3) 福井大学の留学生で、支援会の目的に賛同し、所要の会費を納入し、入会の手続きを行った者（以下「留学生会員」という。）

(4) 前2号以外の者で、支援会の目的に賛同し、第7条に定める寄附金を納入し、入会の手続きを行った個人又は法人等（以下「賛助会員」という。）

(役員)

第5条 支援会に、次に掲げる役員を置く。

(1) 会長 1名

(2) 副会長 1名

(3) 理事 4名

2 会長は、福井大学の学長をもって充て、支援会を代表し、その業務を統括する。

3 副会長は、福井大学の理事（教育・学生担当）をもって充て、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

4 理事は、福井大学の各学部長及び留学生センター長をもって充て、会員の総意を表し、支援会の運営に携わる。

(役員会)

第6条 支援会に、支援会の運営に関する重要事項を審議するため、役員会を置く。

2 役員会は、前条第1項に掲げる役員をもって組織する。

3 役員会は、会長が招集し、その議長となる。

4 役員会は、その過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

5 役員会の議事は、出席した役員の過半数をもって決する。

6 役員会は、第3条に定める事業の実施細目に関わる審議を、福井大学留学生委員会に委ねることができる。

(会計等)

第7条 支援会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 支援会が行う事業に係る経費は、会員からの会費、寄附金その他の収入をもって充てる。ただし、当該年度の収入が目標額を超えた時点で、会費の受け入れを一時停止することがある。

3 会費は、年会費制として、役員及び職員会員は1口1,000円、留学生会員は1口500円とし、1口以上を毎年度ごとに納入するものとする。

4 賛助会員からの寄附金については、任意の額とし、毎年度ごとに納入するものとする。

5 支援会の事業計画及び予算は、役員会の議を経て、会長が決定する。

6 支援会の決算は、毎会計年度終了後、役員会の議を経て、会員に報告するものとする。

(入会及び退会)

第8条 職員会員、留学生会員又は賛助会員になろうとする者は、所定の入会申込書を会長に提出するものとする。

2 会員は、会長に退会届を提出して、退会することができる。また、職員会員が福井大学の職員でなくなったとき、留学生会員が福井大学の留学生でなくなったときには、自動的に退会したものとする。ただし、既納の会費及び寄附金については返還しないものとする。

(事務局)

第9条 支援会の事務局を福井大学内に置き、支援会に関する事務は福井大学学務部国際課が行う。

(補則)

第10条 この会則の改廃及び支援会の運営に関し必要な事項は、役員会の議を経て、会長が定める。

附 則

この会則は、平成18年9月6日から施行する。

③ 留学生支援会の課題

- i 留学生数の増加に伴い、事故・事件被害者への対応、または重篤病気罹患者の支援等を賄えるだけの資金確保のために、教職員の理解と会員加入を如何に進められるかが課題である。
- ii 本会の支援対象者である留学生にも、自助意識をもってもらい、一口500円の会員として募集することになっているが、それを如何に進めるかも課題である。尚、平成19年度は留学生11名が加入し、その他留学生団体(1件)も会費を納めた。
- iii 更に、このような支援の必要性が発生しないような、予防活動を如何に展開できるかが更に大きな課題である。

7) 日本人学生の海外留学支援

① 人員体制

日本人学生の海外留学を支援する専任教職員は現在配置されていないが、日本語・日本事情教育部門の教員1名が担当し、平成15年10月以降その業務を行っている。

② 相談状況

平成19年度の相談件数は教育地域科学部の学生4名から延べ10件あった。うち、留学全般に関する相談は8件、ドイツ留学希望が1件、英語圏への留学希望が1件であった。ドイツ留学については教育地域科学部に窓口となる教員がいるので、そちらへも相談に行くように指導した。

尚、相談交流部門の相談担当教員へも従来より相談で来訪する日本人学生がいるが、平成19年度は少なく、相談案件6件の内、1件のみが海外留学に関するものであった。

ただ、相談担当教員が窓口教員をしている関係で、平成19年2月から1年間インドの学術交流協定締結大学に研究留学生として送り出した工学研究科博士前期課程女子学生につ

いては、交通事故、強盗、病気等事件事故が相次いだため、常時連絡を取りながら、支援指導した。

③ 情報提供

i 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布

国内外の各種団体から海外留学案内ポスターやパンフレット等が送付されてくるので、随時、留学生センターロビーの掲示板に貼ったり、書架に展示したりしている。また、部数に余裕があるときは、学生が自由に持ち帰れるようにしている。

ii 電子メールによる海外留学情報の提供

海外留学に興味を持つ学生に、随時メールで海外留学情報を発信している。国際交流라운ジの参加者や、海外留学相談に訪れる学生に宣伝するなどして、利用者の拡大を図っている。

また、国際課では平成19年に海外留学情報メーリングリストを作成し、プログラム参加者募集、説明会開催、奨学金応募者募集等の情報を月1～2回のペースで配信している。

登録者数は次のとおり。

《登録者数》

(人、平成19年12月現在)

所属	教育地域科学部	工学部	工学研究科	計
登録者数	19	16	3	38

iii 海外留学説明会の実施

海外留学を希望する学生への説明会を毎年実施しているが、参加者は増え続け、平成19年度は延べ58名に達した。平成19年度の海外留学説明会実施回数は4回にのぼった。

第1回

説明会名	平成19年度韓国東亜大学校サマーセッション説明会
日時	平成19年5月18日(金) 14:00～15:30
場所	留学生センター R121 教室
担当	海外留学支援担当教員、国際課職員
対象	本学学生で韓国短期留学に興味を持つ学生
参加学生数	10名
説明項目	コース内容：韓国語、韓国の政治・文化・歴史に関する講義やテコンドー等の文化体験、釜山市内・慶州でのフィールドトリップ等
費用	
宿泊施設	

前年度に派遣された学生による体験談
東亜大学校の交換留学生による東亜大学校や釜山市の紹介

第2回

説明会名	平成19年度海外留学・語学研修説明会（第1回）
日時	平成19年6月29日（金）13：30～15：30
場所	留学生センター 分室ラウンジ
担当	海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
対象	本学学生で海外留学又は海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	25名
説明項目	<ul style="list-style-type: none">・日本人学生の海外留学状況について・海外留学の計画に当たって・日本人学生の海外留学のための奨学金制度について・短期留学推進制度について・長期海外留学支援制度について・福井大学の学術交流協定締結状況・公的な海外留学情報機関及び海外における安全問題に関する情報提供機関について

第3回

説明会名	平成19年度海外留学・語学研修説明会（第2回）
日時	平成19年11月26日（月）18：15～20：15
場所	留学生センター 国際交流ラウンジ
担当	海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
対象	本学学生で海外留学又は海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	25名
説明項目	<ul style="list-style-type: none">・日本人学生の海外留学状況について・海外留学の計画に当たって・日本人学生の海外留学のための奨学金制度について・短期留学推進制度について・長期海外留学支援制度について・福井大学の学術交流協定締結状況・公的な海外留学情報機関及び海外における安全問題に関する情報提供機関について

第4回

説明会名	インド・アンナマライ大学交換留学報告会
日時	平成20年2月7日(木) 13:30~14:30
場所	留学生センター 国際交流ラウンジ
担当	海外留学支援担当教員、国際課職員
対象	本学学生で海外留学又は海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	4名
説明項目	交換留学に行っていた学生による、インドでの勉強や研究、生活のことについての報告

④ 海外留学状況

i 交換留学による海外留学者数

平成19年10月現在、本学には留学生が253名在籍しているが、その在籍者数はここ数年着実に増加してきた。他方、日本人学生の交換留学による海外留学は毎年数名に過ぎない。本学の理念である、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、特に国際社会に貢献し得る人材の育成のためには、日本人学生の海外留学の推進が急務である。海外留学説明会の開催数も増え、参加者数も、前年度が11名であったのに対して、平成19年度は延べ58名と激増した。

ii 協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣

短期語学研修は、本学各学部が主導するプロジェクトとして毎年実施されているが、センターにおいても、平成18年度より、本学が学術交流協定を締結している韓国の東亜大学の夏季短期研修プログラム「KOREAN SUMMER SESSION」に毎年学生を派遣することにした。19年度は下記のとおり実施した。

研修先機関名：	東亜大学校（韓国）
派遣学生：	4名（教育地域科学部2名 教育学研究科2名）
期間：	平成19年8月6日～8月17日（約2週間）
目的：	韓国語初級コースと韓国の政治・経済、社会、文化などに関する特別講義等により構成された、日本人学生向けのプログラムで、韓国社会についての全般的な理解を深める機会を提供することを目的とする。
備考：	プログラム参加費、宿泊費等は無料。

⑤ 日本人学生の海外留学支援における課題

日本人学生の海外留学支援を担当する教員の今後の支援方向としては、昨年に引き続き、以下のことが考えられる。

- i 留学、短期語学研修、その他の海外諸活動など、日本人学生の海外留学等に関する情報を一元管理し、活動推進策を企画・実施していくこと。
- ii 留学情報を随時周知・配信できる体制を構築すること。
- iii 日本人学生だけでなく、教職員を含む本学全体の海外留学に対する意識改革を図ること。
- iv 動機付けを行うための「海外留学のための語学講座」の開講。工学部では平成 20 年度より開講の予定。

3 学内交流活動

留学生相互の交流、日本人学生との交流のために、学内交流活動を推進している。その目的は人間関係のネットワークを通して、①留学生の精神的な安定を図ること。②相互扶助の関係を構築すること。③留学生および日本人学生の国際性の涵養を図ることなどである。

尚、学内交流活動は福井大学留学生会が中心となり、大学生協の学生組織 SOSEN 部などと協力しながら実施している。

表 8 平成 19 年度学内交流活動実績

	月 日	活 動 報 告	人数
1	4月9日	第2回就職説明会	14
2	4月11日	新学期記念日本人学生との交流会	47
3	4月18日	第59回国際交流ラウンジ「花見」	26
4	4月20日	2007年前期オリエンテーション	50
5	4月24日	新入生歓迎会	57
6	4月25日	第65回ビデオショー「フラガール」	12
7	5月1日	こころねっと発送	6
8	5月2日	第60回国際交流ラウンジ	20
9	5月9日	第66回ビデオショー「Batch Adams」	15
10	5月14日	第1回福井大学留学生会事務局会議	7
11	5月16日	第61回国際交流ラウンジ「服装」	15
12	5月16日	第7回サッカー大会	22
13	5月23日	第67回ビデオショー「Taxi NY」	10
14	5月30日	第62回国際交流ラウンジ「大学祭」	12

福井大学留学生センター紀要第4号

	月 日	活 動 報 告	人数
15	6月2日	第3回バレーボール大会	40
16	6月6日	第63回国際交流ラウンジ「梅雨」	15
17	6月9日	第3回バスケットボール大会	30
18	6月13日	第68回ビデオショー「パッチギ」	10
19	6月14日	第1回国際交流キャンプ実行委員会	6
20	6月16日	荒島岳登山	7
21	6月20日	第64回国際交流ラウンジ「6月の花嫁」	8
22	6月27日	第69回ビデオショー「The Truman Show」	5
23	6月29日	海外留学説明会	25
24	6月29日	Le Van Tri 家族4名来訪、ベトナム留学生と交流	10
25	7月4日	第65回国際交流ラウンジ「夏休み」	14
26	7月17日	第6回国際交流キャンプ説明会	27
27	7月20日	第6回国際交流キャンプ実行委員会	6
28	8月8、9日	第6回国際交流キャンプ実施	45
29	8月10日	前期さよならパーティ	25
30	8月23日～24日	白山登山	3
31	9月27日	シンポジウム運営分担説明会	19
32	9月28日	シンポジウムレジュメ袋詰め	10
33	10月2日	第3回留学生国際シンポジウム	107
34	10月12日	オリエンテーション	100
35	10月14日	丸岡古城祭り	19
36	10月17日	第66回国際交流ラウンジ「読書の秋」	15
37	10月19日	新入生歓迎会	25
38	10月24日	第70回ビデオショー「英雄 (H e r o)」中国映画	7
39	10月25日	第3回福井大学留学生会事務局会議	14
40	10月31日	第67回国際交流ラウンジ「ハロウィーン」	7
41	11月1日	第1回こころねっと編集委員会	14

相談・交流部門

	月 日	活 動 報 告	人数
42	11月7日	第68回国際交流ラウンジ「寒いですね」	12
43	11月9日	ビリヤード大会	11
44	11月14日	第71回ビデオショー「オペラ座の怪人」	15
45	11月21日	第69回国際交流ラウンジ「紅葉」	13
46	11月25日	第4回バレーボール大会	24
47	11月28日	第72回ビデオショー「世界はときどき美しい」	9
48	12月5日	第70回国際交流ラウンジ「冬の寒さ」	12
49	12月15日	第8回サッカー大会	21
50	12月12日	第73回ビデオショー「戦場のピアニスト」	13
51	12月14日	㈱タケダレース会社説明会	16
52	12月17日	第4回福井大学留学生会事務局会議兼第2回こころねっと編集委員会	7
53	12月19日	第71回国際交流ラウンジ「Merry Christmas & Happy New Year」	6
54	12月20日	忘年会	35
55	12月24日	第9回サッカー大会	23
56	1月9日	第74回ビデオショー「Lage_Raho_Munna_Bhai」	12
57	1月12日	第4回バスケットボール大会兼第1回卓球大会	30
58	1月27日	第10回サッカー大会(フットサル)	16
59	2月6日	スキー旅行説明会	25
	2月14日	松下モータエキスパート㈱会社説明会	5
60	2月15日	さようならパーティ	30
61	2月19、20日	第7回国際交流スキー旅行	35
62	3月5日	留学生と教職員の交換会	100
63	3月13日	第1回就職説明会	15
64	3月16日	第11回サッカー大会(フットサル)	6
65	3月27日	第2回就職説明会	11
66	3月30日	第12回サッカー大会(フットサル)	18

1) 定期交流活動

毎週第一、第三、及び第五木曜日には国際交流ラウンジを、また、第二、第四木曜日にはビデオショーを実施している。

① 国際交流ラウンジ

案内文（和文例： 実際には和英併記でメール配信する）

留学生及び日本人学生の皆さん

下記の通りお話し会「第71回国際交流ラウンジ(International Friendship Lounge)」を行います。
お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 12月18日（木曜日）18：15-19：15
（毎月第一、第三及び第五木曜日18：15-19：15開催）
場所 留学生センター ラウンジ
参加者 留学生及び日本人学生
内容 前半30分英語、後半30分は日本語によるグループ自由会話
（飲み物、お菓子付）
話題 「Merry Christmas & Happy New Year」
参加費 無料

主催 福井大学生協SOSEN部
福井大学留学生会

② ビデオショー

案内文（和文例： 実際には和英併記でメール配信する）

留学生及び日本人学生の皆さん

下記のとおり、第73回ビデオショーを予定しています。
皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2007年12月12日（木曜日） 18：15-20：30
題名 「戦場のピアニスト」
場所 留学生センター ラウンジ
料金 無料（コーヒー、お菓子付き）

Fady Alnajjar,
Secreratry,
University of Fukui International Student Association (UFISA)
ufasjp@yahoo.

2) その他学内活動

その他の主な活動としては、福井大学留学生会主催による、国際交流サマーキャンプ（1泊2日、越前海岸での水泳、国見岳でのキャンプ。毎年45名程参加）、及び国際交流スキー旅行（1泊2日、福井大学六呂師山荘宿泊、毎年35名参加）がある。両行事とも参加費3,000円であるが、申込み初日で定員オーバーとなる人気行事である。その他に、サッカー、バレーボール、ビリヤードなどのスポーツ大会、歓送迎会、忘年会などを実施している。

3) 福井大学留学生会

① 設立背景と事務局構成

平成15年11月に福井大学留学生同窓会が発足したが、それを機に、その同窓会事務局の提案により、福井大学留学生会が平成16年4月に発足した。その目的は、留学生の相互交流と相互扶助、日本人学生および地域社会との交流である。福井大学留学生会の会長は福井大学中国人留学生学友会長が務めることになっているが、毎学期開始時に、各種行事毎の実行委員会が編成され、実行委員会を中心に行事を企画運営している。

② 福井大学留学生会の活動

福井大学生協の学生組織 SOSEN 部などと協力しながら、国際交流ラウンジ、ビデオショウ、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー旅行、各種スポーツ大会などを実施している。また、地域社会との交流活動としては、県内国際交流団体が主催する行事に積極的に参加している。また、地震・津波など災害救援のための募金活動なども行っている。

4) 学内交流活動の課題

- ① 相談・交流担当教員は日本人学生との接点がないので、e-mail 網等の構築が難しい。
現在は、各種活動に参加する学生から個別に情報を収集しネットワークを構築している。
- ② 留学生の大半は私費留学生であり、生計維持のためにアルバイトをしなければならず、実験やレポートなど課題が多く、時間が取れないため、参加したくても参加できない学生が多い。
- ③ 他方、留学生個人が様々な活動に参加できないと、相談・交流担当者との接触が薄くなり、徐々に顔が見えなくなる。そして、ある日突然大きな問題を抱えて相談に来ることになる。
- ④ 従って、各種交流活動に参加しなくても、常に、目の届くような体制構築が課題である。

4 地域社会との相互支援交流活動

1) 小学校等への一日講師派遣

地域社会は温かく留学生を迎え、受入れ、支援してくれている。留学生も地域の国際化のために、何かをし、喜んでもらう。その満足感、達成感、充実感こそが自己の存在意義、社

会貢献の証しとして懐かしい思い出となる。ギブ&テイクのベクトルは常に双方向の満足感を伴うが、ギブによる思い出こそが知日派、親日派を育てると確信している。その確信から、小中学校の総合学習、企業への通訳・語学講師派遣など、支援活動を展開している。

留学生センターとしての留学生派遣状況は平成14年度(25件)から全て記録してあるが、派遣実績は平成15年度46件、16年度66件、17年度45件、18年度47件、19年度69件となっている。尚、これらの件数はあくまでも、相談交流担当教員が直接介在して派遣したもので、地域社会と関係が重層に構築される中で、大学を通さず、留学生が直接、地域各交流協会の語学講座講師や文化教室講師、また公民館や幼稚園の活動等に参加している例も多い。派遣の流れと、平成19年度派遣実績は下記表9及び表10の通りである。

表9 留学生派遣の流れ

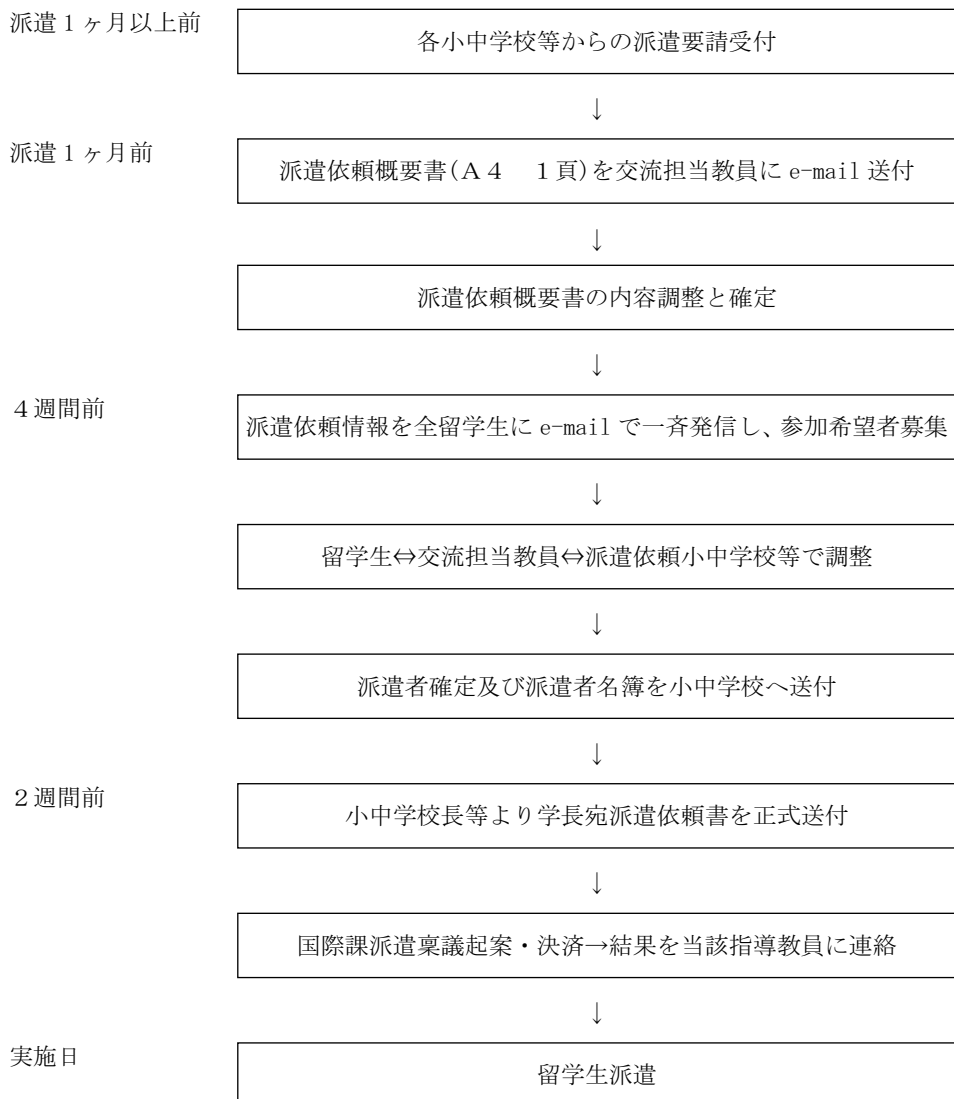


表 10 平成 19 年度の留学生派遣実績

	月 日	派 遣 項 目	人数
1	5月21日	電話を利用した中国語学習	1
2	5月24日	松岡小学校国際理解教育（6年生3クラス78名）	2
3	6月5日～	福井市 ブラジル文化とポルトガル講座	1
4	6月7日	福井テレビ「座・タイムリーふくい」	1
5	6月8日	福井音楽堂「中国琵琶コンサート」	12
6	6月22日	福井市岡保小学校4、5、6年「外国の食文化について学ぶ」	2
7	6月23日	F I A「外国人留学生と県民のための一日バスツアー&ポットラック交流会」	21
8	6月25日	附属小学校 1年 トピック英語プログラム	1
9	6月26日	附属小学校 4年 トピック英語プログラム	1
10	6月27日	附属小学校 2年 トピック英語プログラム	1
11	6月27日	附属小学校 6年 トピック英語プログラム	3
12	6月28日	附属小学校 3年 トピック英語プログラム	2
13	6月28日	附属小学校 5年 トピック英語プログラム	3
14	6月30日	福井市ふれあい交流会	15
15	7月2日	ゆかた着付け教室（ホクビ京都きもの学院）	14
16	7月7日	啓蒙小学校「Keimo International Day」	15
17	7月27日	F M福井「Radio DaDA」	1
18	7月28日	福井県国際交流協会 ポットラック交流会	17
19	8月5日	ゆかたの女王コンテスト、県民福井新聞	8
20	8月20日	福井テレビ インドネシアバンダアチェ取材協力	2
21	8月23日	中華人民共和国駐日大使 王毅 閣下～ 特別講演会 ～ 「中国の発展と日中関係の展望について」	21
22	8月25日	インターナショナルさかい、坂井市男女共同参画推進会議 「国際交流なんでもしゃべり場」「世界が見た日本/日本が見た世界： 家族、社会、男女参画について」	6
23	9月18日	越前市王子保小学校「ハローワールド」	1
24	9月28日	F M福井「Radio DaDA」	1
25	9月29日	福井市 地域交流促進事業	5

福井大学留学生センター紀要第4号

	月 日	派 遣 項 目	人数
26	10月14日	丸岡古城祭り	19
27	10月20日	ブラジル料理・文化紹介 湊公民館	1
28	10月23日	日新小学校第5学年 日本文化を知ろう	4
29	10月27、28日	公文 English Camp	5
30	10月28日	国際交流フェスティバル カラオケ大会	10
31	11月3日	ふくい子ども文化祭(福井県、A O S S A)	10
32	11月3日	ベトナム・中国の料理・文化紹介 本郷公民館	2
33	11月4日	F I A通訳ボランティアガイド研修会 現地研修	12
34	11月8日	順化小学校研究授業	1
35	11月10日	福井市鶉小学校 ハローワールド(エネルギー、環境)	2
36	11月11日	F I A通訳ボランティアガイド研修会 意見交換会	10
37	11月11日	ベトナム文化紹介 和田公民館	1
38	11月11日	2007 越前町国際交流フェスティバル	20
39	11月17日	Minato International Day	5
40	11月17日	福井市 世界の文化紹介講座 「若者が見る中国の今」 国際交流会館	1
41	11月18日	嶺南国際交流のつどい 外国文化体験コーナー	1
42	11月19日	国際交流人材ネットワーク登録	15
43	11月20日	日新小学校第5学年 日本文化を知ろう	4
44	11月22日	大野市本庄小学校ハローワールド(食事、遊び、学校行事等)	1
45	11月26日	附属小学校 1年 トピック英語プログラム	2
46	11月27日	附属小学校 4年 トピック英語プログラム	1
47	11月28日	附属小学校 2年 トピック英語プログラム	1
48	11月28日	附属小学校 6年 トピック英語プログラム	2
49	11月29日	附属小学校 3年 トピック英語プログラム	1
50	11月29日	附属小学校 5年 トピック英語プログラム	2
51	12月4日	啓蒙小学校6年生英語活動	5
52	12月5日	福井市清明小学校ハローワールド(自然文化歴史挨拶等)	2

	月 日	派 遣 項 目	人数
53	12月8日	中国料理紹介 上文殊公民館	3
54	12月11日	越前市武生西小学校ハローワールド	1
55	12月16日	福井市 クリスマスふれあい交流会	20
56	1月11日	(財)福井県国際交流協会ラジオ番組出演	1
57	1月14日	商工会議所珠算英語読み上げ算	1
58	1月18日	(財)福井県国際交流協会ラジオ番組出演	1
59	1月26日	インターナショナルさかい「第4回世界文化紹介講座」	1
60	1月29日	あわら市金津東小学校ハローワールド	2
61	1月31日	福井県環境・エネルギー懇話会設立10周年記念事業環境・エネルギー懸賞作文コンテスト	3
62	1月31日	インド文化紹介 松本公民館	1
63	2月7日	敦賀商工会議所海外ビジネス講演会	2
64	2月17日	福井北ロータリークラブスピーチコンテスト	16
65	2月23日	フランス文化紹介	1
66	3月6-7日	福井県若狭町モニターツアー	20
67	3月15日	異文化理解サロン(インド)、福井市国際交流協会	2
68	3月18日	福井テレビ 留学生クイズ番組(本学ラウンジで録画)	9
69	3月22日	インターナショナルさかい ブラジル移住100周年記念 日本ブラジル友好親善の夕べ	1

2) 福井県等官界とのネットワークと交流活動

福井県、特に産業労働部国際・マーケット戦略課、福井県国際交流協会、同嶺南センター、各市町村の国際交流協会との交流活動を随時実施している。

3) 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。

他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。日本社会が抱える少子化、そして、世界的な人的移動と人材確保競争の中で、留学生センターとしては、地域国際化支援の核として、地域産業界への

人材供給と留学生の就職支援を目的に、平成13年、14年、18年に「県内企業と留学生の交流会」を実施した。その結果、留学生の国内就職者は、平成13年度8名（県内4名）以降、14年度6名（同2名）、15年度16名（同9名）、16年度23名（同9名）、17年度9名（同4名）、18年度は26名（同7名）、そして、19年度は30名（同11名）と着実に増加している。

今後も商工会議所、JETRO等と連携しながら、留学生の国内就職を推進していきたい。

4) 地域国際交流ネットワーク構築及びネットワーク誌「こころねっと」

帰国留学生、在学留学生、教職員、日本人学生、地域産官学民各界とのネットワーク構築のためにネットワーク誌「こころねっと」を平成13年秋号以降毎年発刊している。平成19年度も第7号2,500部を発行した。「こころねっと」の概要は下記の通り。

表12 「こころねっと」概要

発行部数	2,500部
配布先	帰国留学生、在学留学生、本学教職員学生、地域国際交流機関・個人、県下全小中高校、各大学留学生センター、他
編集	在学留学生中心の編集委員会
内容	在学・帰国留学生投稿記事2/3、センター行事等1/3が目安。行事感想、生活・旅行・映画・読書等体験、各国文化・社会紹介 各国挨拶紹介、各国料理紹介、帰国留学生からのメッセージ

5) 福井大学留学生同窓会活動

① 福井大学留学生同窓会設立の背景

昭和45年に福井大学第1号留学生Lim Kim Teck氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、約1,000名の留学生が福井大学で学び、約800名が帰国した。卒業後、日本国内に就職して在住しているものも多い。平成13年秋のネットワーク誌「こころねっと」創刊に当たり、帰国留学生全員の住所ラベルを作成し、冊子を送付した。その中に、「福井大学留学生同窓会登録用紙」を同封したところ、多数の返信があった。そこが設立の出発点である。

② 福井大学留学生同窓会設立

文部科学省より特別配分予算を受け、平成15年11月30日に「第1回福井大学留学生同窓会大会」を開催。招聘した帰国留学生13名及び在学留学生計91名が参加し、同窓会設立宣言文を採択した。そして、劉丁会長以下事務局を選任した。

③ 支部設立の動き

平成16年12月マレーシアのクアラルンプールで「福井大学留学同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、支部設立宣言文の採択と事務局選出が行なわれた。その後、タイ、

インドネシア、韓国、西安、上海、杭州、台湾、北京に支部が設立され、平成19年度にはハンブルク支部が10番目の支部として設立された。

④ 同窓会の活動

同窓会の活動としては、①支部会員相互の情報交換、交流や連携活動 ②他国支部との情報交換、交流や連携活動 ③福井大学を含む福井県産官学民との交流 ④各国と日本の経済・文化交流などがある。

⑤ 上海支部企画「教育・経済交流ミッション」来訪

平成19年10月1日から5日までの5日間、支部会員16名編成の「教育交流と経済ミッション」が来訪し、県内産官学民と交流した。具体的には、表13の通り、第3回留学生国際シンポジウム「福井大学留学生同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワークの構築に向けて」、「県庁訪問交流」「県内企業との商談会」などを実施した。メンバー16名中12名が会社経営者だったことあり、特に「商談会」を実施することとなった。

表13 上海支部企画「教育・経済交流ミッション」日程

日付	午前	午後	夜
10/1 (月)	チェックイン：ワシントンホテル スケジュール打合せ		
10/2 (火)	10:30-12:00 福井大学地域共同研究センター見学	14:00-17:00 第3回留学生国際シンポジウム	18:00-20:00 福井大学留学生同窓会 上海支部との交流会
10/3 (水)	10:00-11:30 福井県国際・マーケット戦略課との交流会(県庁)	14:00-17:00 県内企業との商談会 (福井商工会議所)	自由
10/4 (木)	自由	13:00-17:00 工場見学	18:30 福井大学留学生同窓会 上海支部大会
10/5 (金)	チェックアウト：ワシントンホテル 帰国又は国内移動		

6) 福井県留学生交流推進協議会

県内産官学民の計30団体機関が会員となり、「福井県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進する」ことを目的として活動しているが、留学生センターからは、センター長及び相談交流担当教員がその運営委員会委員として参画している。また、福井大学国際課がその事務局となっている。

その主な活動としては、「留学生救済援助金」による国民健康保険料助成、情報交換などである。また、毎年、「福井県留学生だより」を国際課が編集し、発行している。センターの諸活動についてもそこに掲載し地域に発信している。

7) 課題

① 地域社会との相互支援活動について

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。そこで、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することにしていく。

又、留学生は遠方の派遣先に自転車で向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。

実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

② 同窓会各国支部との連携活動について

同窓会各国支部網、ネットワーク誌「こころねっと」を通じたネットワーク、帰国及び在日卒業生700名に及ぶe-mailアドレス網は本学、及び地域社会の国際化戦略における重要なインフラと考えている。小規模大学が海外事務所を持つことは難しいが、同窓会各国支部には本学の海外支部としての役割を期待し、それを既にお願している。

今後の活動方向としては、

- ・ 上海支部が平成19年10月実施した来訪ミッションのように、産官学民との交流を促進するミッション活動を続ける。
- ・ 本学教員が各国支部と協力して、現地で産官学民の参加者を集めた、シンポジウムや講演会を実施し、その中から国際共同研究のシーズを発掘する活動
- ・ 以上二つの双方向活動をいかに展開すべきか。更には、この双方向活動を福井との双方だけでなく、支部相互間にも構築するにはどうすべきかを議論し、企画し、実施するための福井大学同窓会世界大会を定期的に開催したい。

5 外部への情報発信活動

1) 主な発信媒体

留学生センターの情報発信媒体としては、「留学生センターホームページ <http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>」がその中心的な役割を果たしている。ホームページ「こころねっと」(<http://anc.anc-d.fukui-u.ac.jp/kokoronet/>)は平成19年度より、「留学生センターホームページ」に合流し、その役割を終えた。その他の発信媒体としては、「福井大学留学生センター紀要」「センターニュース」、ネットワーク誌「こころねっと」、などがある。

2) ネットワーク構築を支える情報登録・管理

学内及び地域、そして国際的なネットワークを構築して活動を展開しているが、その基盤となるのが、住所及びメールアドレスの登録と管理である。

登録状況は下記のとおりである。

ネットワーク誌「こころねっと」発送等のための登録住所（ラベル打出用）

帰国及び在日卒業留学生	945 件
県内小中高、企業、機関等	678 件
合計	1,623 件

情報発信、交流促進のためのメールアドレス

帰国留学生	522 件
在日留学生	210 件
在学留学生（携帯等重複）	399 件
その他	611 件
合計	1,742 件